

# 台風6号対策について

平成23年7月14日  
営農支援課

## I ハウス等施設全般の対策

施設については別添の「ハウス等施設の台風対策」を参照。

## II 作物別の対策

### 1 普通作物

#### 【早期水稻（穂揃い期～黄熟期）】

##### （1）事前対策

- ① 倒伏や強風・乾燥風による稲体の脱水症状の軽減のため深水管理を行う。  
特に本年度は、葉色が濃く軟弱気味で生育しているため、脱水症状が発生しやすいので注意する。  
※ただし、棚田等で深水により畦畔破壊のおそれのあるところでは注意する。
- ② 冠水しやすい水田では溝切りや排水溝の整備を行う。

##### （2）事後対策

- ① 冠水した水田では、速やかに排水する。
- ② 台風通過後も、吹き返しによる乾燥風で、稲株が脱水状態になることがあるので、風がやむまで十分な湛水状態を保っておく。
- ③ 倒伏した稲はできるだけ引き起こすなどして登熟向上に努める。
- ④ 収穫機械に故障が生じないように、水田内に飛散したゴミ等は除去する。

#### 《参考：平成19年産早期水稻の被害状況》

今回の台風は、平成19年産米の収量・品質に甚大な被害を及ぼした台風4号と、稲の生育や台風進路等が類似するので十分注意する。

##### ① 19年産早期水稻の被害状況

- ・ 作況指数：「43」
- ・ 1等米比率「0.2%」（玄米品質の格下げ要因の約7割が乳白粒）

##### ② 被害の発生要因

- ・ 出穂後から日照不足が続き、稲体が軟弱気味であった。
- ・ 7月14日に台風が本県東側を通過し、強風および台風通過後の吹き返しの乾燥風が長時間続いた。
- ・ その結果、稲体が脱水症状となり登熟に障害が生じ乳白粒が多発した。

#### 【普通期水稻（分けつ期）】

##### （1）事前対策

- ① 深水にして茎葉の損傷の軽減を図る。  
※ただし、棚田等で深水により畦畔破壊のおそれのあるところでは注意する。
- ② 冠水しやすい水田では溝切りや排水溝の整備を行う。

## (2) 事後対策

- ①冠水した水田では、速やかに排水する。
- ②強風で葉が擦れるといもち病や白葉枯れ病が発生しやすくなるので注意する。

## 【大豆（播種期～生育初期）】

### (1) 事前対策

- ①冠水しやすいところでは溝切りや排水溝の整備を行う。

### (2) 事後対策

- ①冠水したところでは速やかに排水し、侵蝕された畦は早めに土寄せする。
- ②欠株が生じた場合は早めに追播きする。

## 2 野菜

### 【栽培中の施設野菜全般】

#### (1) 事前対策

- ①ハウスバンドにゆるみがないよう、しっかりビニルを押さえる。
- ②ビニルの上から防風ネット等を被覆し、ハウスバンド等で固定すると強度が増す。
- ③ハウス妻部には筋かいを入れて補強する。
- ④台風の進路に注意し、直撃する可能性があり、ハウス倒壊の危険がある場合（25m以上の風）は、押さえバンドを切ってビニルを除去する。
- ⑤ハウスの周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。
- ⑥防風ネットの設置してあるほ場においては、根石や支線の点検を行い風雨により強度が低下しないよう対策を講じる。
- ⑦ハウス周囲を点検し、強風で飛びそうなものは片付けるとともに、燃料タンク等の付帯設備がしっかり固定されているかを確認する。

#### (2) 事後対策

- ①防風ネット・寒冷紗等は直ちに除去し、通風を良くする。
- ②湛水した場合速やかに排水を行う。
- ③傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ④速効性窒素肥料を成分で10a当り2～3kg施す。
- ⑤草勢の低下や茎葉が損傷すると病害が発生しやすいので、登録農薬を散布する。

### 【陽熱消毒中のハウス】

#### (1) 事前対策

- ①台風の進路に注意し、直撃する可能性があり、ハウス倒壊の危険がある場合（25m以上の風）は、消毒中ハウスの押さえバンドを切ってビニルを除去する。
- ②ハウス内のほ場を覆っているマルチについては、風ではがれないようにするために、土を詰めた肥料袋等で重しをする。
- ③ほ場内に周辺から流水が侵入しないように排水溝を整備する。

## (2) 事後対策

- ① 湛水した場合速やかに排水を行う。
- ② 陽熱消毒の効果が不十分な場合は登録農薬による土壌消毒を併用する。

## 【いちご苗】

### (1) 事前対策

- ① ほ場周囲の排水溝を整備する。
- ② ハウス倒壊の可能性が高い場合には、育苗ハウスのビニルを除去する。
- ③ 採苗の始まっていない親株は、倉庫など安全な場所に移動する。
- ④ 採苗が始まっている場合は、風で飛ばされないよう寒冷紗・防風ネット等を苗の上に直接かけて、風で飛ばされないよう固定する。

### (2) 事後対策

- ① 倉庫等に移動した場合は、速やかに育苗ハウスにもどす。
- ② 寒冷紗、防風ネットなど苗の上にかけていた被覆資材を直ちに除去し、通風を良くする。
- ③ 苗の冠部が土に埋まったものは、速やかに土を除去する。
- ④ 雨風に当たると炭そ病等の病苗が増えるので、病株は早めに除去し、登録農薬を散布する。

## 【露地野菜類全般】

### (1) 事前対策

- ① ほ場の周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。

### (2) 事後対策

- ① 湛水した場合速やかに排水を行う。浸蝕された畦は早めに土寄せ等を行う。
- ② 茎葉の損傷部分や草勢の低下により病気が発生しやすいので、登録農薬を散布する。

## 【露地きゅうり、ピーマン、にがうり、オクラ】

### (1) 事前対策

- ① 栽培ほ場周辺に防風ネットを張る。
- ② ほ場の周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。

### (2) 事後対策

- ① 湛水した場合速やかに排水を行う。浸蝕された畦は早めに土寄せ等を行う。
- ② 損傷の激しいものは除去し、傷害果や幼果は早めに摘果、倒れた枝は引き起こして誘因し、受光態勢を整え、草勢の回復を図る。
- ③ 速効性窒素肥料を成分で10a当り2～3kg施す。
- ④ 茎葉の損傷部分や草勢の低下により病気が発生しやすいので、登録農薬を散布する。

## 3 果樹

### 【果樹共通】

#### (1) 事前対策

- ① ほ場への降雨が速やかに排出されるように園内の排水対策を徹底する。
- ② 防風ネットの点検を行う。

③枝の分岐点が裂けるおそれのある幼木や高接ぎ樹では、枝葉をまとめて結束したり、分岐部を縄で8の字型に縛っておく。

## (2) 事後対策

- ①結束した枝は、早めに解いて蒸れを防ぐ。
- ②幼木・若木・根元から揺さぶられた樹・倒伏した樹は早急に立て直し、盛り土、根締めを行い、支柱で固定する。
- ③枝が裂けたものは軽傷ならば縄などでしっかり縛って固定し、回復させる。
- ④折れた枝は切り取り、大きな傷口に癒合促進剤を塗る。
- ⑤落葉のひどいものには、日焼けを防止するために石灰乳を塗布する。

## 【かんきつ類】

### (1) 事前対策

- ①風傷による葉や果実へのかいよう病の発生が懸念されるので、襲来前に銅水和剤の散布を行う。
- ②温州みかんなどのマルチ栽培では、被覆資材が風であおられないように土のう等で固定する。

### (2) 事後対策

- ①前回の黒点病防除から250ミリ以上の降雨があった場合は、褐色腐敗病対策を兼ねてマンゼブ水和剤の散布を行う。
- ②塩害が懸念される場合は、6時間以内に2～3トン/10a以上の水で洗い流す。その後落葉が発生した場合は、程度に応じた摘果（場合によっては全摘果）や枯れ枝の整理を行う。

## 【なし、ぶどう等】

### (1) 事前対策

- ①棚や防風ネットの補修を早めに行うとともに、棚の揺れの激しいところは支柱を立てて結束するなど補強を行う。
- ②側枝等の棚への誘引を見回り、ゆるんでいる場合は締め直す。

## 【落葉果樹類】

### (2) 事後対策

- ①病気の発生に注意し、防除基準に準じて襲来後直ちに防除を実施する。

## 4 花き

### 【露地花き全般】

#### (1) 事前対策

- ①滞水しないように排水対策を充分に行う。
- ②マルチは土寄せを行うか、市販の止め具等によりしっかり固定し、風による剥がれを防ぐ。
- ③生育に応じて、支柱・ネット等で誘引・固定し、茎葉の損傷を防ぐ。
- ④ほ場周辺の片づけを行ない、飛来物による作物の被害を防ぐ。

#### (2) 事後対策

- ①浸水・冠水した場合は、速やかに排水を行う。

- ② 必要に応じて殺菌剤、液肥の葉面散布、追肥を行う。

### 【シキミ】

#### (1) 事前対策

- ① 幼木は倒れる可能性があるので、支柱で固定する。

#### (2) 事後対策

- ① 浸水・冠水した場合は、速やかに排水を行う。
- ② 倒れた木、傾いた木は無理に起こすと根が切れて、枯死する場合があるので、段階的に起こして、正常な状態に戻す。
- ③ ほ場に土砂が流入した場合、根の活力が低下して枯死する場合があるので、速やかに株の周りの土砂を取り除く。

### 【施設・雨よけ花き全般】

#### (1) 事前対策

- ① 排水溝の整備、防風ネットの設置を行う。
- ② 草丈がある程度伸びたものは、支柱を補強し、誘引ネット等の張りを強化して倒伏を防止する。
- ③ ハウス内のかん水チューブやスプリンクラー・ミスト施設は風で飛ばないように収納あるいは固定する。

#### (2) 事後対策

- ① 湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。マルチ栽培の場合はマルチをはがして畦を乾燥させる。
- ② 台風後の高温・強日射の被害を防ぐために寒冷紗倒で被覆を行う。
- ③ 茎・葉の損傷が発生した場合は、薬剤防除・液肥の葉面散布等を行う。
- ④ 電照や夜冷育苗等、電気機器を使用する品目では、機器が正常に稼働するか点検・確認を実施する。

### 【ホオズキ】

#### (1) 事前対策

- ① 茎葉の損傷を軽減するために、支柱・ネットによりできるだけ株の固定を行う。
- ② 台風の進路によりハウスのビニル被覆を剥ぐ場合に備え、防風ネット等で畦の周囲を覆う。

#### (2) 事後対策

施設・雨よけ花き全般に準ずる。

### 【コチョウラン他、冷房ハウス等】

#### (1) 事前対策

- ① 長期停電に備え、自家発電等を用意するとともに、事前に試運転を実施する。
- ② デルフィニウム等の夜冷育苗は、苗を夜冷庫内に収納する。
- ③ 外部遮光、被覆等は除去するかハウス上部に巻き上げて固定する。

#### (2) 事後対策

- ① 落蕾等により停電した場合は冷房設定を再度確認する。
- ② 夜冷育苗の場合は、台風通過後、すみやかに遮光資材等の被覆を元に戻し、苗を夜冷庫から外に出す。

その他は施設・雨よけ花き全般に準ずる。

## 5 特用作物

### 【茶】

#### (1) 事前対策

- ① 三番茶摘採適期で、強風による葉擦れ等の被害を受ける恐れのある茶園では、被害回避のため、早めの摘採を実施する。
- ② 本年定植～2年目の幼木園で定植時や5月にせん枝できず、徒長枝が伸び、風の影響を受けやすいと予想される場合は30cm前後で徒長枝のせん枝を実施する。
- ③ 幼木園では防風ネットを設置する。(防風用のソルゴー間作(5～7月播種)が有効。)
- ④ 幼木園での株元やマルチ資材への土寄せを行い、株の揺れやマルチのバタツキを防止する。
- ⑤ 敷わら・敷草等による土壌の浸蝕防止と明渠設置による浸・冠水防止と排水対策を行う。
- ⑥ 茶工場(煙突、屋根、雨とい、窓等)の点検・整備・補強を実施する。

#### (2) 事後対策

- ① 風雨による倒伏や地際の損傷を受けた幼木では、株元や剥げたマルチ資材への土寄せ、添え木、補修を実施する。枯死株は植え替えを行う。
- ② 降雨なく海からの風で塩分が付着したとみられる茶園は、塩分付着8時間以内の早めの散水(5mm以上)による塩分除去を行う。
- ③ 強風により葉の損傷を受けた挿し木床や茶園では薬剤散布を実施する。ただし、三番茶摘採を考慮して実施する。
- ④ 滞水・浸蝕部分の速やかな排水処理と改修・整備を行う。
- ⑤ 茶工場の被害確認、点検・整備を実施する。

### 【たばこ】(宮崎県たばこ耕作組合作成)

#### (1) 今後の収穫・乾燥について

- ① 遊休乾燥室の稼動準備→事前点検はしっかり行う。
- ② 共乾施設と連携し、収穫量を確保する。
- ③ 収穫(台風前)について  
当面収穫作業を優先し、進みの早いものから出来るだけ多く収穫する。  
・ 収穫可能な圃地が多い場合 → 作の良い圃地の合・本葉を優先に収穫  
上葉は後回し  
・ " 圃地が少ない場合 → 収穫出来る圃地を通常の総かぎで収穫
- ④ 台風通過後、2日以内に取りおろしが出来る分は収穫する。

#### (2) 停電対策(重要)

- ① 蒸酵、黄変期の場合は吸排気口、大戸を開け、ムレ、腐れを防ぐ。
- ② 固定期以降は、吸排気口を閉め、温度低下によるヨゴレを防ぐ。
- ③ 送電が開始されたら徐々に温度を上げ(1時間に3～4度)、元の温度に戻す。  
2～3時間後、温度が安定したら吸排気口を少しずつ開け、開度を元に戻す。

#### (3) 台風通過後の作業について

- ① 台風後の収穫は、2～3日、日光を当てて収穫する。
- ② 台風通過後、強日照により日焼けや、風傷み、根傷みによる枯れ上がりが心配されるが、黄化した葉でも葉裏に黄緑味があれば収穫する。
- ③ 収穫できない圃地は、ヒトマイシン（200～300倍）を散布し病害防除に努める。
- ④ 葉分け区分は行うこと。葉分け混じりによる下位格付を防ぐ。

#### （４）その他

- ① 貯蔵庫の点検
- ② 災害葉は区分し、ピッキングを行い、袋詰めも別にする。
- ③ 乾葉の吸湿には十分注意する。

## 6 畜産

### 【畜産全般】

#### （１）事前対策

- ① 畜舎の防風対策を十分に行い、特に開閉部はしっかりと固定するなど、破損に注意する。
- ② 特に山間部では、道路の通行止めが予想されるため、飼料（配合飼料、青刈り、サイレージ含）は、余裕をもって準備する。
- ③ 停電が予想されるので、発電機の手配とともに、試運転を事前に行う。
- ④ 断水の可能性がある場合には、最小限の飲水量を給水タンク等で確保する。
- ⑤ 家畜ふん尿等が、流出しないよう、必要な対策を行う。

#### （２）事後対策

- ① 浸水した畜舎は、台風通過後に速やかに消毒する。

### 【養豚・養鶏】

#### （１）事前対策

- ① 鶏舎内への雨の打ちこみを避け、床に湿り防止を行う。

#### （２）事後対策

- ① 台風通過後は、急激に気温が上昇することがあるので、肥育豚及び出荷前のブロイラーでは、畜舎を開放するなど換気に努める。

### 【飼料作物】

- ① 発芽間もない飼料作物は、長期間の冠水で湿害が予想されるので、事前に排水対策を講じ、冠水した場合は速やかに排水を行う。
- ② 刈取り適期のトウモロコシは、早めに収穫しサイレージ等に調整する。
- ③ 収穫間近のソルガムは、倒伏した場合、接地点から発芽し、収穫時に土が混入しやすくなるので、すみやかに収穫する。

## 別添 「ハウス等施設の台風対策」

営農支援課

### 【事前対策】

① 防風ネットの設置  
防風ネットはあらゆる強風対策の基本であり、必ず設置する。

② 被覆資材の補強  
被覆資材がはがれる被害は、屋根の両端の破れが引き金となる。  
図1の ■ 部分をネットで保護する。

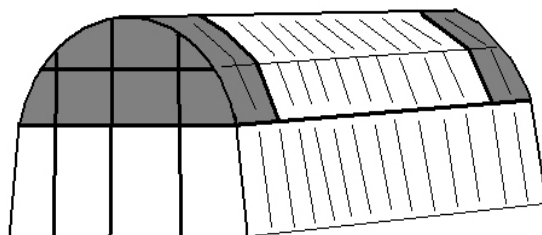


図1 被覆資材の補強

③ ハウス本体の補強  
ハウスビニル等にシワ・タルミがあると、耐風性は大幅に低下する。必ず確認を行なう。  
サイドビニル、出入り口はしっかりと閉じて固定する。  
ハウスバンドの本数を増やすとともに、締め直し補強する。ハウスバンドを止める側のヨリ鋼線や支柱を支えるラセン杭も補強する。硬質ハウスでは天窗の補強も重要となる。ロープ等でしっかりと固定する。

④ 排水対策の徹底  
ハウス内に雨水が流入しないように、周囲の排水溝の整備を徹底する。また、ハウスが連棟の場合、谷水を「とい」などで排水路まで導き、ハウス内に入らないようにする。

⑤ 自動開閉装置対策  
ハウスを締め切ったあと、温度センサーによって換気部が動き出さないようにする。

⑥ 燃料タンク対策  
台風により、広範囲が冠水しているときに、燃料タンクが倒れたり、配管の破損等により燃料油が流出すると、農作物だけでなく施設周辺にも被害を及ぼすので、タンクの固定ボルトの増し締め、配管付近の片付けを行う。

⑦ 換気扇の利用  
換気扇がある場合には、換気扇によってハウス内を低圧状態に保つことで、ハウスビニルの揺れを防止する。また、停電に備え非常用電源を準備する。

⑧ 倒壊の恐れがある場合  
ハウス倒壊の危険がある場合には、押さえバンドを切ってビニールを除去し、ハウスの倒壊を防ぐ。  
また、雨中の作業では、飛来物に注意し、転落事故にも気を付ける。

### 【事後対策】

通過後一気に晴れてしまうことが多いので、換気対策を優先し、換気部の補強を解き、自動開閉装置の設定を元に戻す。  
ビニルが破損した場合には、速やかに補修する。  
滞水した場合には、すみやかに排水を行なう。